

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873101067		
法人名	株式会社ニューライフ三浦		
事業所名	グループホーム ニューライフ三浦		
所在地	東茨城郡茨城町長岡 4347-4 (電話) 029-240-7703		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年11月10日

【情報提供票より】 (平成20年6月26日事業所記入)

開設年月日	平成16年7月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 9人, 非常勤 11人, 常勤換算 15人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建ての 2 ~ 3 階部分
------	--------------------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり	円	月額 35,000 円

## (4) 利用者の概要(平成20年6月26日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	1	要介護2	4
要介護3	5	要介護4	4
要介護5	4	要支援2	0
~3	平均 84 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦胃腸外科医院・水戸赤十字病院・はせがわ歯科医院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅地にあり、家庭的な雰囲気の中で和気藹々とコミュニケーションを図りながら、自立に向けた支援をしている。  
 運営者は利用者の現況把握を兼ねて毎日回診に訪れるとともに、専門医療機関と連携し、利用者に応じた適切な医療が受けられるよう体制を整えている。  
 自家菜園を楽しむことができる場面づくりを積極的に行い、管理者と職員が一体となって質の高いサービスに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点はすぐに改善している。 外部評価結果は職員に報告し改善点について話し合うとともに、運営推進会議でも報告している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は自己点検シートをもとに各ユニットの職員と話し合い作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は家族、地域包括支援センターや町職員、民生委員、区長などで構成し3ヶ月に1回開催している。 会議でだされた意見やアドバイスをもとにサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族訪問時は話しやすい雰囲気づくりを心がけるとともに、苦情箱を設置している。 家族等から相談があった場合は職員でカンファレンスを行い、結果をすぐに伝えている。 平成20年6月に発足した「家族の会」で意見や不満、相談等何でも話し合うようにしている。 運営推進会議に家族の代表だけではなく、多くの家族が参加するよう働きかけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者は町役場や商店会の催事、自治会活動に積極的に参加している。 小・中学校の職場体験、健康セミナーや振り込め詐欺などのセミナーの会場としてホームを開放し、利用者も参加しながら地域の人々と交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境でその人らしく暮らし続けることを支援するとの理念を掲げている。	○	地域密着型としての理念を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はミーティングや朝礼で理念を毎日唱和し確認している。 穏やかに接することを心がけるとともに外出を積極的に支援するなど理念の実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は町役場や商店会の祭事、自治会活動に積極的に参加している。 小・中学校の職場体験、健康セミナーや振り込め詐欺などのセミナーの会場としてホームを開放し、利用者も参加しながら地域の人々と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自己点検シートをもとに各ユニットの職員と話し合い作成している。 外部評価を職員に報告し、改善点について話し合っている。 前回の改善点はすぐ改善するとともに、運営推進会議でも報告している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の家族等、地域包括支援センターや町職員、民生委員、区長などで構成し3ヶ月に1回開催している。 会議でだされた意見やアドバイスをもとにサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は町が主催する認知症サポーターの講師を務めるとともに、電話での介護相談で地域包括支援センターへの橋渡しを積極的に行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族からの相談は、職員でカンファレンスを開催し、結果を郵送で報告している。 毎月、請求書送付に合わせて、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時は話しやすい雰囲気づくりを心がけるとともに、苦情箱を設置している。 「家族会」を平成20年6月に発足させ、意見や不満、相談等何でも話し合うようにしている。 運営推進会議に家族会の代表だけではなく多くの家族が参加するよう働きかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家庭の事情で退職しても事情解決後は復職している。 離職による交代時には、利用者や家族等に事情をよく説明するとともに馴染みの職員が引き継ぐことにより、ダメージを最小限に抑えている。 また、交代した職員は声かけ等を頻繁に行い、馴染みの関係を築く努力をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員のモチベーションを高めるよう努めている。 内部研修後不足と思われるものについては、外部研修を受講している。 研修報告を全職員に周知させ共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接するグループホームとイベントや研修などで連携に努めるとともに、地域の全てのグループホームに連携を呼びかけている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1階がデイサービスになっているため、デイサービスを利用しながらユニットを見学してもらい、利用者が自由に行き来してホームに馴染めるよう努めている。 利用開始にあたっては、家族や利用者と相談しながら意思を確認している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活のなかで利用者ができなかったことができた時はともに喜びを分かち合っている。 また、職員は利用者の人生経験のなかから人との接し方、付き合い方等を教えてもらい、勇気づけられている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や行動から思いや意向を把握するとともに、把握結果を介護記録やアセスメントに記入するよう努めているが、記入もれが散見される。	○	思いや意向の把握がケアの出発点と捉え、把握した結果を確実に記録することを期待する。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医師や地域包括支援センター職員、介護支援専門員などでチームをつくり残存機能維持を目標にリハビリ、声かけ、見守りの方針等について話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスをもとに食事内容を変更することについて専門医に相談し、介護計画を見直しているが、見直しの過程で達成度を評価するまでには至っていない。	○	評価シート様式は既に作成しているが、見直しの前提となる計画の達成評価を確実にを行うことを期待する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現状の課題や家族の意向等を踏まえながら、利用者と医療連携を活かし入院を回避するため月に17～18回通院支援をしている。 入院中の利用者はいつ退院できるか担当医と連携し密に利用者に面会している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在8名の主治医と連携するとともに、専門医の受診も支援している。 受診結果は職員間で共有するとともに、面会に来られる家族に報告し、来所の少ない家族には毎月受診結果報告書を郵送している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期にも「個人の尊厳を守る」という方針について職員で話し合い共有している。	○	方針を文書化するとともに具体的な課題について全職員で話し合うことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損なわないよう利用者の目線に立った言葉かけや耳元で穏やかに話すなどを心がけている。 職員間で注意し合い、ホーム内に個人情報保護方針を掲示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の曜日など職員の都合を優先して週間予定を決めないよう留意している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食事の調理補助等をしてもらい、一緒に楽しみながら準備をしている。 職員とおしゃべりをしながら楽しい雰囲気です。 利用者との会話の中から希望や嗜好を把握している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴を楽しめるよう支援しているが希望に応じて毎日の入浴が可能であり、時間帯も利用者の希望に合わせている。 入浴を拒否した場合は、シャワー浴や清拭で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人記録や職員間の連絡帳で利用者の趣味や生活歴を把握し、一人ひとりの力を活かした役割を持てるよう支援している。 新たな趣味や生活歴はカンファレンスで話し合い、全職員で共有するよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前のレストランが地域の方々が集まる場所になっており、利用者の馴染みの場所としてよく食事に出かけている。 買物、ドライブ、散歩等は利用者のコンディションに合わせ、希望にそって支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害について話し合い、夜間のみ鍵をかけている。 近隣は留守が多いため安全に配慮し、監視カメラを取り付けている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理教育を徹底するとともに消火器の場所確認も全職員で行っている。 消防計画に基づいた避難訓練を年2回実施しているが、施設長としては頻度をあげ災害に対する意識を強く内外に持ってもらいたいと考えている。	○	職員が手薄になる夜間の避難体制について、地域の協力を得て取り組むことを期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化や食事の摂取量、水分量等は利用者ごとに記録し、一人ひとりに応じた支援をしている。 栄養士や調理士のアドバイスを受けながら、利用者の栄養バランスに配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は南向きで、窓ガラスも大きく明るい空間となっている。 過度な装飾はなく季節の花等を置き、家庭的な雰囲気づくりをしている。 廊下にベンチを設置し居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具や家族の写真など好みの物を持ち込み、居心地よく家庭的な雰囲気になっている。 畳敷きの部屋は、床との段差が生活でのリハビリとなっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。